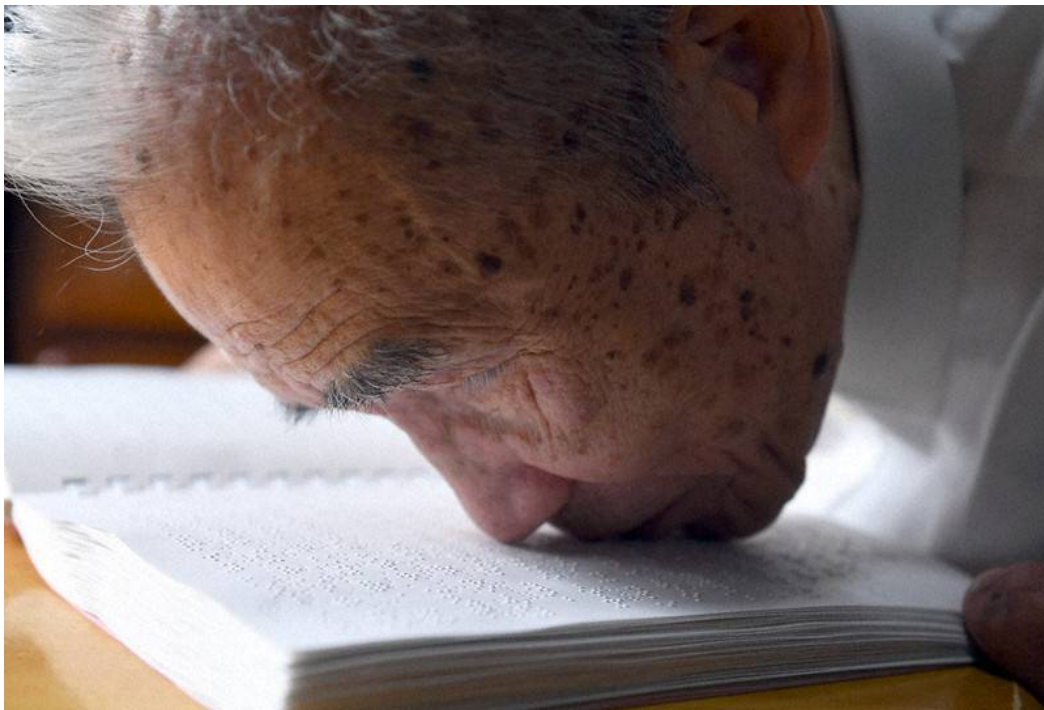


藤野高明さん＝第58回点字毎日文化賞を受賞

毎日新聞 2021/11/5 東京朝刊 「ひと」



藤野高明（ふじの・たかあき）さん（82）

「『弟の分まで生きる』と母に約束したから」。幾多の苦境に遭いながらも人生を諦めない原動力をそう話す。

終戦翌年の1946年の夏。2歳下で当時5歳だった弟と自宅近くの小川で遊んでいた時、単4電池ほどの部品を見つけ持ち帰った。不発弾とは気づかずに、その穴にくぎを差し込んだとたん、爆発した。自身は両目の視力と両手を失った。弟は即死だった。

地元・福岡の盲学校への入学を希望したが、「両手がなければ点字の読み書きができない」と認められず、不就学を余儀なくされた。

18歳の時、人生の転機が訪れた。入院した病院で看護学生が作家、北條民雄の「いのちの初夜」を朗読してくれた。手が使えないハンセン病患者が、唇で点字を読んでいることを知った。同様に読めるようになった点字は、人生を切り開く「希望の文字」になった。

20歳で大阪市の盲学校に入学。点字での教員採用試験に合格し、世界史担当教員として63歳まで母校の教壇に立った。

光と両手を失って75年の今年、4冊目の本を出す準備を進めている。11歳の孫から100歳の元朗読ボランティアまで全国の170人余りが、藤野さんとのエピソードをつづる。

今の若者にぜひ伝えたい。「努力しても報われないことはいっぱいある。それでも諦めない、人とのつながりを大事にする。そして、自分だけで生きようとしなない」と力を込める。〈文・佐木理人 写真・滝川大貴〉

■人物略歴

藤野高明（ふじの・たかあき）さん

宝物は、15年前に亡くなった妻が買ってくれたハーモニカ。将棋を愛好し、西武ライオンズの大ファン。